

研究者と話そう

■時 間:14:30~15:30(予定)
(常設展示場および特別展示場観覧料が必要です。)

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!

「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別! どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

展示ケースでの湿度コントロール
(イントロダクション展示)



実施日・話者・話題・場所

※都合により、予定を変更することがあります。

10月5日(日)

三田 牧 (先端人類科学研究部機関研究員)

沖縄の魚にみる生活文化

於:展示場内休憩所

10月12日(日)

飯田 卓 (文化資源研究センター准教授)

貝の民族学

於:オセアニア展示、アフリカ展示、北アジア展示

10月19日(日)

松園 万亀雄 (国立民族学博物館館長)

「フィールド・ワークってなに? ー私のアフリカ体験から」

於:第5セミナー室

10月26日(日)

園田 直子 (文化資源研究センター教授)

展示場の環境づくりー温度・湿度編ー

於:常設展示場、特別展示場

編集後記

マンガやアニメが日本の「文化大使」ならば、映画は長らくインドの文化大使となってきた。派手な衣装に身をつつむグラマラスな俳優や女優が繰り広げる「濃い」物語が、世界に広がるインド・イメージの重要な要素であることは間違いない。今号ではそのインド映画を特集した。インド系移民の拡散地域にそって伝わり、その先へと広がってゆくインド映画の活力には驚かされてしまう。今年は日印映画交流年にあたり大阪や東京などではインド映画祭も開催されるようだ。レンタルビデオ店でも特集でふれた作品のいくつかは借りられる。今号をきっかけにインド映画で秋の夜長を楽しまれるのも一興かもしれない。

今号では「裏特集」として、10月から民博で開催される企画展「インド刺繍布のきらめき」に関する話題をいくつか取り上げている。独特の色使いと美しい文様もまたインド・イメージの精華のひとつだ。外出には絶好の季節、民博に足を運び、刺繍の美と技を見、またそこに込められた人びとの情念を感じていただければ幸いである。(三尾 稔)



次号予告/11月号特集
今日のレヴィ=ストロース

2008年 10月号 第32巻第10号通巻第373号
2008年10月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎
庄司博史 中牧弘允 三尾 稔
山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます



交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。